

# 飛鳥京跡第161次調査

## —外郭北部の調査—





調査地位置図 (国土地理院 1/25,000 地形図「畝傍山」)



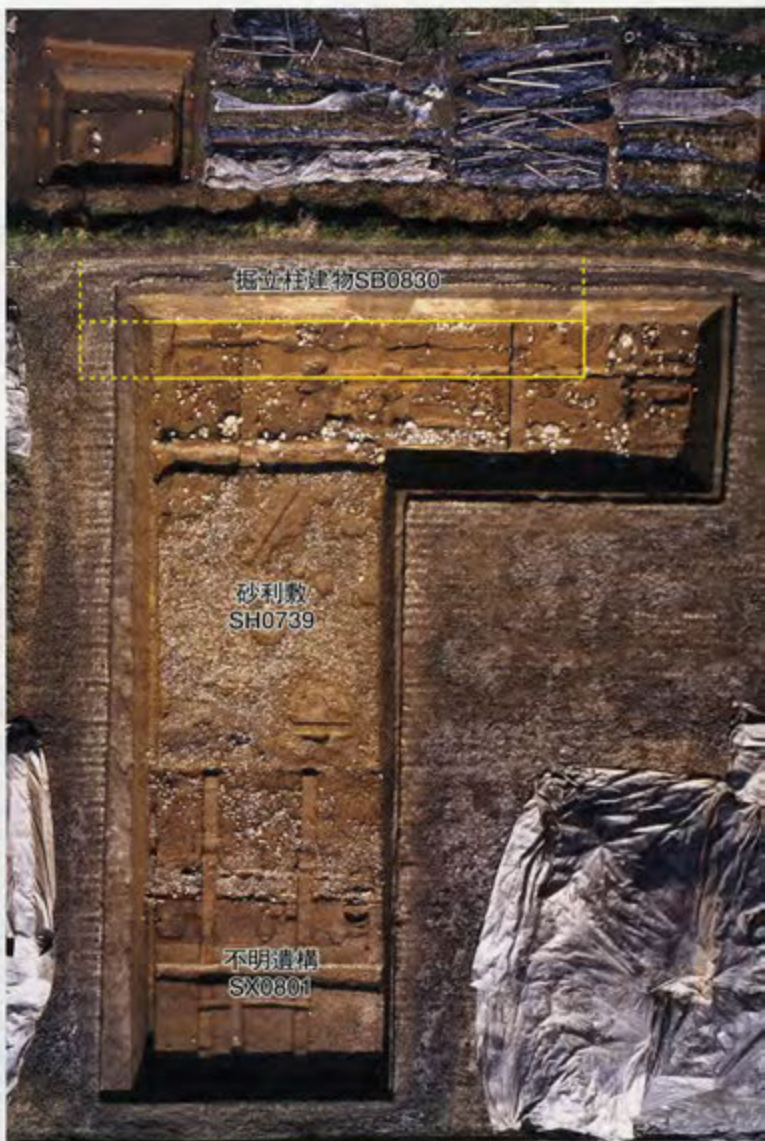
調査区配置図 (1/2,500) 飛鳥京発掘調査位置図



1トレンチ 砂利敷SH0739(北から)



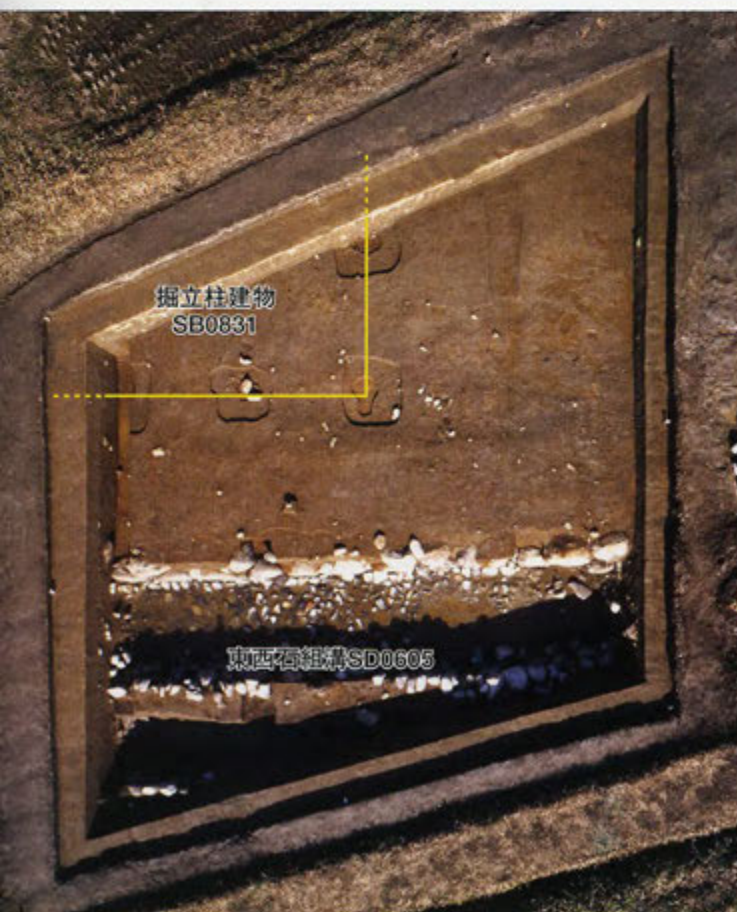
調査地遠景(南上空から)  
調査地の北に飛鳥寺・石神遺跡



1トレンチ(下)・2トレンチ(左上)垂直写真(上が北)



3 トレンチ 東西石組溝SD0605と掘立柱建物SB0831(南から)



3 トレンチ 垂直写真(上が北)



3 トレンチ 東西石組溝SD0605(西から)

## はじめに

飛鳥京跡は奈良県高市郡明日香村大字岡から大字飛鳥にかけて所在する宮殿遺跡です。これまでの調査で3時期の遺構が検出され、これを下層からⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期と呼んでいます。Ⅰ期は舒明天皇の飛鳥岡本宮(630～)、Ⅱ期は皇極天皇の飛鳥板蓋宮(643～)、Ⅲ期は斉明天皇・天智天皇の後飛鳥岡本宮(656～)と天武・持統天皇の飛鳥浄御原宮(672～)の可能性が考えられています。

今回の調査は「飛鳥宮学術調査事業」(世界遺産登録への足がかりとなる史跡指定に向け、飛鳥宮の学術調査を実施)です。平成20年度から22年度までの3年計画の事業で、今回はその1年目にあたります。飛鳥京跡の調査はこれまで内郭やエビノコ郭、外郭東部の調査を中心に行なわれてきましたが、近年は第152次・157次・158次調査などで飛鳥京跡の外郭北部を重点的に調査しています。今回の調査では、第158次調査で検出した東西掘立柱列SA0740・SA0741および南側の砂利敷SH0739の確認とその性格を明らかにする目的で、第158次調査のトレンチを再発掘して東と南に拡張しました(1トレンチ)。また、前年度に検出できなかった、第157次調査で検出した東西石組溝SD0605東延長部分の検出を目的として1トレンチ北側についても発掘を行いました(2トレンチ)。さらに第157次調査地と第158次調査地の中間地点において東西石組溝SD0605などを確認するために発掘しました(3トレンチ)。

## 第161次調査の成果

〈1トレンチ〉昨年度に検出した東西掘立柱列SA0740・SA0741は外郭を区画する柱列ではなく東西方向の掘立柱建物であることが判明しました。この掘立柱建物SB0830は、東西5間以上(東西15m以上)南北3間以上(南北7m以上)で南に庇が付きまゝ。庇の出は1.8mです。建物南辺には石組で底石を持つ幅0.45mの雨落溝SD0701があり、掘立柱建物SB0830南東角で南北石組溝SD0817に接続します。建物の柱穴や雨落溝の位置関係から、この建物は切妻造りであったと考えられます。掘立柱建物SB0830の前には砂利敷SH0739があります。砂利敷SH0739は南へ15m(50尺)の地点で終了し、それより南側では落ち込みを埋めたSX0801を確認しました。

外郭における施設の具体的な様相はこれまでよくわかっていませんでしたが、今回の調査では建物と儀式を行なう広場を良好な状態で確認できました。これらの遺構はいずれも藤原宮へ遷る段階で埋められたようです。

〈2トレンチ〉当初想定していた東西石組溝SD0605の東延長は検出できませんでしたが、1トレンチと同じ基壇土(化粧土)がひろがり、柱を抜き取った痕跡が認められることから掘立柱建物SB0830はこの辺りまでおよんでいたとみられます。2トレンチ内では雨落溝や砂利敷などの建物外装は検出されなかったため、建物北端・西端はトレンチ外側にあると考えられます。

〈3トレンチ〉東西石組溝SD0605の東延長と掘立柱建物SB0831を検出しました。東西石組溝SD0605は幅1.8m深さ0.8mで南北両岸に石組護岸があります。出土遺物から飛鳥時代後半の溝とみられます。掘立柱建物SB0831の南側にあたる溝底部分には底石を敷き詰めています。この東西石組溝SD0605は第157次調査地と3トレンチとの間で南北石組溝SD0315(第152次調査で検出)に接続し、さらに3トレンチよりも東へ伸びますが、2トレンチでは検出できなかったことから、東西石組溝SD0605は途中で曲がるものと考えられます。掘立柱建物SB0831は東西2間以上(4m以上)南北1間以上(3m以上)の建物で、出土遺物や正方位で建てられていることなどから、東西石組溝SD0605と同時期の飛鳥時代後半と考えられます。この付近では東西石組溝SD0605より北側にも建物が展開していたことがわかります。

## まとめ

今回の調査では、飛鳥京跡外郭北部において建物や砂利敷広場が展開している状況を良好な状態で確認することができました。調査地のすぐ北には飛鳥寺があります。飛鳥寺南門の南に広がる石敷広場までが飛鳥寺の範囲と考えられていますが、そのすぐ南まで飛鳥宮に付属する役所が広がっていた様子がうかがわれます。飛鳥寺との関係や飛鳥宮の北限については、今後の調査で明らかにしたいと思います。(鶴見泰寿・東影 悠)

表紙 1トレンチ 掘立柱建物SB0830(南東から、後方は甘樫丘)

## 飛鳥京跡第161次調査 ー外郭北部の調査ー 現地説明会資料

2009年2月14日

奈良県立橿原考古学研究所

〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町1番地 Tel. 0744-24-1101

<http://www.kashikoken.jp/> (ホームページでも現地説明会の案内・説明内容をご覧いただけます)